



国際ロータリー 第2690地区 第10グループ

# 玉野ロータリークラブ

■2009～2010年度 役員■  
 会長 東川 清隆  
 会長エレクト 岸本 昌法  
 幹事 槌田 正則  
 副幹事 緋田 秀雄  
 S A A 松尾 洋二  
 副S A A 近藤 勇進

2009～2010年度  
 国際ロータリーのテーマ



国際ロータリー会長 ジョン・ケニー

# 週報

■事務局/〒706-0011 玉野市宇野1-11-1  
 TEL. 0863-33-2228 FAX. 0863-33-2225  
 ホームページ <http://www.tamano.or.jp/rotary>  
 E-mail [tamanorc@tamano.or.jp](mailto:tamanorc@tamano.or.jp)  
 ■例会場/瀬戸大橋カントリークラブ  
 〒706-0153 玉野市滝1640-1  
 TEL. 0863-71-4500 FAX. 0863-71-4509  
 ■例会日/毎週金曜日(12:30～13:30)

No.2053	
4月2日例会 プログラム	「ロータリー雑誌月間に因んで」 インターネット・雑誌・広報委員会 渡邊正俊委員長
4月9日例会 プログラム	「警察をとりまく問題点」 玉野警察署 署長 小松 善彦様
4月2日のメニュー	・和牛せせり(カルビの内側) ステーキ・菜の花と帆立の煮物・大根のナマス・ざるうどん・ご飯・コーヒー

## 前回(3月26日)例会記録

出席報告	会員総数	33名	出席者数	21名	欠席者数	12名	出席率	63.64%	前回補正率	84.85%
	前回補正者	東川君 近藤君 三宅(孝)君 三宅(照)君 島田君								
	欠席者	東川君 林君 井上君 近藤君 三谷君 三宅(孝)君 三宅(照)君 大西君 小野君 富永君 安江君 山田(次)君								

### 会長挨拶

皆様、ご多忙のところ御出席ありがとうございます。今日は東川会長が公務で欠席のため副会長の岸本がご挨拶をさせていただきます。

さて、2日程前にテレビをみていましたら、面白いことをやっていたのでご紹介したいと思います。日本の家電製品が非常に優れているということで5つの家電製品が紹介されていました。1つ目が炊飯ジャーで、容器が全部カーボンで出来ているため熱が均等に伝わるということと、カーボンの中に空隙があるため外の空気を取り込んでお米がうまくなるといって、しかもお米を炊く時の水蒸気が外に一切漏れず全部中に封じ込めてしまうそうです。実際食べた方は数倍美味しいと言われておりました。2つ目は扇風機です。普通、扇風機には羽根がありますが、その扇風機には羽根がなく、30～40cmのリングの中から風がふぁっと出てくるのです。タネはリングの端に小さなスリットが切ってあって、そこから空気を出して周りの空気を吸い込んで風を送るのだそうです。3つ目は電気洗濯機です。ドラム式で乾燥が出来ようになっており、乾燥した後は一切アイロンをかける必要がないとのこと。中で風が回って繊維を全部伸ばしてしまうそうです。その風速は80m/sec位で、中で暴風が起きているような状態とのこと。4つ目は3Dテレビで、4月に販売開始になるというお話です。5つ目は電子レンジです。普通の電子レンジはチンと加熱するだけですが、この電子レンジは過熱水蒸気を出して、中で調理出来るという優れたものです。過熱水蒸気は水を温めたら水蒸気になり、それを更に温めて過熱状態になり300℃位の温度があるそうです。水蒸気と云えども過熱水蒸気の前にマッチ棒を出すとパァーッと赤く発火するというようなことを実験でやっておりました。しかもいくつかの種類異なる食物を入れて調理ができ、油を使わない天ぷらやから揚げも出来るということを実験でやっておりました。以上5つの優れたものです。因みに我が家には1つもありません。皆様方のご家庭にはいくつあるのでしょうか。

### 幹事報告

- 葛尾ガバナー事務所より①地区大会記念誌が届いておりますのでボックスに配布しております。②米山梅吉記念館 春季例祭のご案内が届いております。
- 小林ガバナー・エレクト事務所より会長エレクト研修セミナー(PETS)への参加に対するお礼状が届いております。
- 総社ロータリークラブよりクラブのメールアドレス変更のお知らせが届いております。

E-mail : [soja-rc@wit.ocn.ne.jp](mailto:soja-rc@wit.ocn.ne.jp)

- 4月のロータリーレートのお知らせが届いております。1ドル=90円
- ボックスを回覧しますのでチリ大地震の寄付をお願い致します。
- 他クラブ週報、例会変更通知は回覧させていただきます。

### 委員会報告

- 緋田副幹事：地区協議会のご案内⇒日時：平成22年4月11日(日) 受付10:30～ 本会議11:00～、場所：岡山コンベンションセンター、出席義務者：次期会長、次期幹事、次期クラブ奉仕委員長、次期職業奉仕委員長、次期社会奉仕委員長、次期国際奉仕委員長、次期ロータリー財団委員長、計7名。

- ・ハイロー会(谷口ハイロー会幹事)：

①大阪リバーサイドRC・玉野RC 第3回合同親睦ゴルフコンペのご案内。

日時：平成22年6月6日(日) 場所：ダイヤモンド佐用カントリークラブ

②第170回ハイロー会のご案内⇒日時：平成22年3月28日(日)、場所：東兎ヶ丘マリンビルズゴルフクラブ。

## スマイル・ボックス

- ・島田君－①松尾先生には家族でお世話になりました。②長期欠席しました。
- ・仲田君－本日最後の卓話です。結婚記念月。
- ・渡邊君－公害審査会の為早退致します。

## プログラム 「玉野での4年を振り返って」 仲田 正幸君

私も玉野に来て丸4年が経ちました。年齢的にも昭和25年7月生まれですから還暦まであと数ヶ月であります。今年は何か変化が起こると思っていましたが、全く思いがけない変化が起こりそうであります。

還暦のショートスピーチでも申しましたが、三井造船での私の今までの歩みを振り返れば想定外のことの連続でした。30歳直前でロンドン勤務を命じられたこと、造船不況で余剰となった労働力を生かそうと住宅産業へ進出すべく輸入住宅事業の立上げに携わり、四苦八苦したこと、関西支社勤務となり関西電力への食い込みに懸命になっていた時に、急に本社へ呼び戻され、橋梁営業という妙な世界に身を投じることになったこと、その結果、時代の波に翻弄され、何の土地勘も地縁も人脈も勤務経験もない玉野に来たこと。そして、今回は再度、海外勤務のお鉢が回ってきました。5月になればマレーシアのクアラルンプールへ赴任します。

でも、今は玉野に来て本当に良かった、楽しかったと思っています。三井造船の社員として、当社発祥の地であり、売上の半分以上を担う中核事業所たる玉野を知らずして卒業してしまっただけで、三井造船のごく一部しか知らずに会社人生を終えてしまうところでした。

会社関係以外の人々との親交を深められたのも有意義でした。私の故郷は徳島で、今も母親と兄、妹それぞれの家族が徳島に居ますが、私自身は徳島を出てから40年以上も経っている訳ですから、あまり徳島に執着はありません。私自身の住まいは、現在他人が住んでおりますが、茨城県の取手市にあり、二人の娘たちは、それぞれ家庭を持ち、西東京と川崎に住んでおります。家内は、行く行くは娘たちに近い所に落ち着きたいと言っていますが、私自身は玉野を終の棲家とするのも悪くないと思っています。

玉野に来て何が良かったか？ こんなことを言えば、社長に叱られるかも知れませんが、先ず、何と言っても数字のプレッシャーから開放されたことであります。それまでは、一貫して事業部の営業部門にいましたので、数値目標が頭から離れず、期末が近づき目標数値の達成に目処が立っていなければ、気が重く、時には数字のプレッシャーに押し潰されそうになる毎日でした。営業出身の玉野総務部長は私が初めてであり、玉野事業所の総務というところは、総務、勤労、安全の3グループからなり、何かと雑用が多く多忙ではありましたが、総じて管理部門で育った者ばかりでしたので、「色々あるが、数字のプレッシャーと比べたら、どうってことはないぞ。損益目標や、受注目標を課せられた事業部のお手伝いをするのが総務部の仕事だ。お金を使うばかりで儲けられない総務は出来るだけ小さい方がいいんだ。」と口癖のように言ってきました。という訳で、玉野ではのびのびと仕事が出来ました。

仕事を離れば、これまた楽しいところでした。一向に上達はしませんでしたでしたが、ゴルフは満喫しました。数えてみれば昨年は63回です。ゴルフに関しては障害といえは家内の顔色だけでしたが、これも赴任して2年目にはほぼ克服しています。ダイニングルームの壁に会社の年間カレンダーを貼っているのですが、ゴルフの予定が入れば、黙ってオレンジ色で予定日を塗りつぶしておきます。「あら、今週も土日ともゴルフなの？」「あっ、そうそう。土曜日は本社からのお客さん、日曜日はロータリーの皆さん」てな具合で、どんどん塗りつぶしていくと、その内、何にも言わなくなりました。その代わり、たまに週末フリーとなると買物やら、ドライブやら山歩きなど家庭サービスに努めました。山歩きについては、林さんがわざわざ全頁をコピーしてくださった「玉野の山歩き」という本が大役役に立ちました。和田の社宅に近い神登山からの眺めは結構素晴らしいものです、もしまだ登っていない人は、おにぎりを用意して是非とも登ってみてください。車ならあっという間に登ってしまう王子ヶ岳も下から歩いて登ると新しい発見がありますし、山歩きの初心者にはうってつけのコースです。よしっ、王子ヶ岳も征服したぞという気持になります。深山公園から登って玉野ゴルフを取り囲むように尾根伝いに歩くのも良かった。ゴルフをしながら、遠くに見える大きい岩を指差して、あの岩の上で弁当を食べたよと自己満足の自慢話をしたりします。その他、十禅寺山、臥竜山、金甲山、常山、高辺山も手頃で散策には持ってこいです。玉野へ来る前は関東平野の真ん中にいましたから、こんなに手頃に山歩きを楽しむことは出来ませんでした。

娘たちが孫を連れて遊びに来た時は、三井造船の進水式を見せ、渋川海岸から鷺羽山、王子ヶ岳と巡って瀬戸大

橋を望み、おもちゃ王国で遊び、深山公園、田井の港公園、天満屋の子供広場や社宅近くの公園まで連れて行くと、数日の滞在はあっという間に過ぎて、「何イーこの街、子供が遊ぶ所がいっぱいじゃーん、お父さん、すごくいい所に住んでいるねえ」と言ってくれました。

仕事以外で色々な方と親交を深めることが出来ましたのも幸いでした。幸いでしたというより、玉野という街はそんな所なのでしょう。東京勤務の時は往復3時間以上かけて、専ら会社と自宅を往復するばかりで、ご近所付き合いは希薄です。休日はせいぜいテレビかパチンコです。ロータリークラブの皆様との出会いも楽しい思い出となりそうです。当時会長であった藤田さんと三宅さんが事務所に来られて入会のお誘いを戴いた時は、ロータリークラブの何たるかも知りませんでした。奉仕の精神を旗印に、多少なりとも世に中のお役に立つための活動をしながら、利害関係のない異業種の方々が親交を深め合う、お金持ちの週1回のお食事会以上のことはあると思います。少なくとも月に1回は例会に出席しようと心がけてはいたのですが、終盤は欠席勝ちになってしまいました。それでも例会や家族も一緒にイベントでは、何の気遣いもない居心地のよい雰囲気を楽しむことが出来ました。後任の者にも入会を勧めたいと思います。

それにしても、玉野とは何だかんだと集会やら会合の多い街でした。そして、どの会合でも、必ず馴染みの顔が何人かは見られます。正月ともなると、1月の半分は新年会ですし、総会の時期や選挙が近づくと集会だらけです。選挙など無縁であった私ですが、着任早々、市議員選挙や県議員選挙で慣れない応援演説のお鉢が回ってきたのには恐縮しました。生協の総代会、職人塾、商工会議所、体育協会、街づくり協議会・・・玉野という所はそれだけ人と人の繋がりが強い街だと思えます。殺伐とした都会にはない玉野のよさだと思えます。

このように玉野という街は住んでみれば非常に住み心地の良い所だと思うのですが、外部から見れば、パットしない街だと見られているようです。

宇野駅を降りてみると、街の顔が見えないと誰かが言っていました。街の賑わいが無い。特徴が無い。刺激が無い。食事をする所がない(マクドナルドの出店はうれしかったですが)。外から来た人にお金を落としてもらえない。高齢化が進み、人口が減り続けている。しかし、これらのことは何も玉野に限ったことではありません。全国の地方都市、特に県庁所在地でない地方都市に共通の問題であります。無いことを嘆くより、他にない強みにもっと目を向けるべきだと思います。

玉野には、素晴らしい自然美があります、工業技術の集積があります、重要港湾の宇野港があります、官民一体の街づくりを進めるに相応しい風土、人と人との繋がりがあります。これら資源を活用して、更に魅力ある街づくりを推し進めていくべきだと思います。その意味でも、現在、市を挙げて取り組んでいる中心市街地活性化基本計画の実現に寄せる期待には大きいものがあります。

「造船の町、玉野」と言われますが、この言葉にはちょっと抵抗感があります。現在の玉野事業所で働く人の数は約5,000人です。三井造船本体と関連会社で約4,000人、協力会社の皆様が約1,000人です。かつてより相当少なくなっていますが、玉野市が三井造船の企業城下町として発展してきたことは事実でしょうし、これからも玉野市にとって三井造船は大きい存在であり続けると思えます。しかし、玉野市は三井造船と運命共同体であって欲しくないと思えます。「造船の町、玉野」ではなく、「造船と〇〇の町」、或いは望むらくは「〇〇と〇〇と造船の町」となって欲しいと思えます。

1970年代中頃以降、造船業は、一時、構造不況産業と呼ばれ、玉野市そのものが特定不況地域に指定されるという苦しい時代がありました。幸い、今暫くの仕事量がありますが、2年後3年後には大変厳しい状況となる可能性が高まっております。好不況の波を避けられないのは造船業の宿命です。程度の差はあれ、必ず厳しい時代はやってきます。三井造船では来るべき大競争の時代に備えて、次世代船とも言うべき、CO<sub>2</sub>の30%削減船の開発やコストダウンの為の設備合理化を進めています。しかし、地元企業の皆様には、三井造船と完全運命共同体であって欲しくないと思えます。三井造船が厳しい状況になった時、地元企業の皆様へ及ぼす痛みが少しでも和らぐよう備えていただきたいと思っています。この点については、著書「挑戦する企業城下町」の中で提言されている一橋大学の関教授と思いを同じくしておりますので引用させていただきます。「玉野の場合では『造船は2~3年好況が続くと、3~4年は不況の繰り返しで、不況の時は身を縮めていれば、そのうち三井造船がなんとかしてくれる』、『良い仕事をしていけば仕事は自動的に来る』、『地域の中で何とかなる』などの考え方が身に染み付いている。(中略)現状を突破するためには、『地域の常識』の逆を模索すべきだろう。世間の荒波に自ら出て行って、『細かな仕事を拾う』、『新たな技術に貪欲になる』、『多様な異業種の企業と付き合う』などが不可欠であろう。」 同感であります。

最後に、余談ですが、戦後間もない頃、三井造船の存続が危ぶまれる事態が起こっていたことをエピソードとしてご紹介します。

戦争で荒廃した日本には賠償に応じる国力がありません。そこで、GHQの賠償調査団は各地の造船所の施設の

一切を賠償にあてるという方針を打ち出し、財閥系造船所の玉野もその対象とされる可能性が高まったのです。この時、三井造船の従業員と玉野市民は一体となって造船所存続運動を展開し、12,000人を超える嘆願署名を集め、市民大会を開き、決議文を添えて占領軍に提出しました。結果として、三井造船玉野は賠償指定を免れ存続することになった訳ですが、後日談があります。この嘆願書は当時進駐軍の担当官であったホングスワース中佐宛に提出されたものですが、昭和62年(1987年)同中佐のご令嬢から「両親の遺品の中から、12,000人の署名のある嘆願書が出てきた、両親は日本での生活を大変エンジョイしていたし、日本の文化と日本人を大変尊敬していたので、日本の関係者の方へお返ししたい」との意向が伝えられ、嘆願書が当社へ寄贈、返還されました。この嘆願書は現在、玉野事業所の総務部が保管しています。

玉野事業所には大正6年の創業時代の写真や文献、書書類がたくさん埋もれています。今、ご紹介しました嘆願書を含め、昔の資料を取り纏めて、いつか三井造船記念館を作りたいと考えております。まだ社内的には予算措置も出来ていないのですが、有志のOBの方10名ほどに毎週月曜日の午後集まっただき資料の整理をいただいております。完成まで見届けることは出来ませんが、この作業も後任の者に引き継いでいきたいと思っています。

今回、思いがけずマレーシアへ行くことになりましたが、聞くところによればクアラルンプールという所は、日本人が住んでみたい外国の一番人気の都市だそうです。ひょっとすると私もそんな気持になるかも知れませんが、私の終の棲家については、①持ち家のある取手市、②娘たちに近い町、③玉野、④クアラルンプール、⑤徳島のこれら5つを選択肢として残しておこうと思っています。玉野が選ばれた場合には、引き続きよろしくお願ひ致します。

ご清聴ありがとうございました。